東海道五拾参次

橋　本　たねひろ

２４、金谷（かなや）ー大井川遠岸　　遠江国・静岡県島田市

左下は大高欄と呼ばれる最大級の輦台で大名駕籠のまま渡河して嶋田に向かっており、おそらく２０人以上の人足がかついでいるでしょう。

前には馬や槍が先行しており、対岸の山並みの中に白く嶋田宿が見えています。同じ場所を２枚描いた唯一の例となりました。

嶋田から金谷まで３.９ｋｍの行程です。

２５、日坂（にっさか）ー佐夜ノ中山　　遠江国・静岡県掛川市

金谷坂を上り、牧ノ原台地の菊川の集落を過ぎると、一面茶畑が広がる光景が素晴らしい。このあたりを「佐夜ノ中山」と呼び、坂を上りきって下る道の真ん中に直径１ｍ程の石があったそうな。「夜泣き石」と呼ばれる奇妙な日坂名物で、絵はその夜泣き石を眺める旅人を描いています。現在は国道一号線佐夜ノ中山トンネル脇に置かれています。

金谷から日坂宿まで６.５ｋｍの行程です。

２６、掛川ー秋葉山遠望　　遠江国・静岡県掛川市

日坂から７.１ｋｍで掛川宿に到着しますが、ここを過ぎれば二瀬川に架かる大池橋を渡ります。

その大池橋を渡る腰の曲がった老夫婦、老夫婦を見送る孫か、反対側から赤い袈裟の僧侶と供の僧、遠く田植えの景色、画面からはみ出した袋井丸凧（次の袋井宿の名物）、糸の切れた丸凧が秋葉山の方へ飛んでいます。

橋を渡ると秋葉神社の鳥居と常夜灯があります。秋葉神社は昔から火伏り（ひぶせり・防火）の神の総本山で、江戸火消しも参拝していました。

２７、袋井ー出茶屋ノ図　　遠江国・静岡県袋井市

東海道の真ん中に位置するという袋井宿、掛川から９.６ｋｍの宿場入り口にある出茶屋（屋根のない簡素な茶店）の冬の風景です。木の枝から自在鉤（じざいかぎ）に薬缶（やかん）を懸け火吹き竹で火を起こしている農家のかかあ、その煙がもうもうと立ち上っている、客待ちの駕籠かきのひとりが煙管に火をつけている、飛脚が座って休んでいる、木の横に宿場入り口の道標（棒鼻という）が立っており、後方に稲刈りが終わった田が広がっています。